

富山地区学校再編に関わる地区説明会 会議録

日時 令和6年1月25日（木）

午後7時から午後7時58分まで

会場 富山中学校体育館

【当日関係者】

検討委員	16人（2人欠席）
オブザーバー	2人
参加者	12人
報道	0人
事務局	11人（2名欠席）

1 開会

進行 皆さんこんばんは。定刻となりましたので始めさせていただきます。

本日は大変お忙しい中、また、お疲れのところ御出席をいただき、誠に有難うございます。

本日の進行を務めます、教育委員会事務局 学校再編整備課の平田と言います。よろしくお願いいたします。

進行 説明会に入る前に、お手元に配布いたしました資料の確認をお願いします。

まず、説明会「次第」。

次に、「令和5年度 富山地区学校再編検討委員会委員名簿」で、A4両面印刷のもの。

次に、本日の「席次表」。

次に、資料1「南房総市立小学校・中学校 児童生徒数推移見込み（市内全地区）」で、裏面が「中学校別 部活動の実施状況」となっているA3両面印刷が1枚のもの。

次に、資料2「南房総市立中学校 生徒数・学級数・教員数推移見込み（富浦地区・富山地区）」で、A3片面印刷のもの。

次に、資料3「富山地区の中学校再編（案）」で、A4片面印刷のもの。

次に資料4「保護者説明会の概要」で、A4両面印刷でホチキス留めとなっているもの。

配付物は以上の7種類となります。御確認いただき、不足等がございましたら、手を挙げていただけますでしょうか。よろしいでしょうか。

では、開会の前に皆様にお願いがございます。この後、次第の6で、皆様からの質疑・意見交換の時間がございますが、声がこもることがありますので、マスクを外して御発言いただくようお願い申し上げます。

また、議事録を作成いたしますのでお名前を述べてから、御発言をお願いいたします。

進行 それでは、ただ今から、富山地区学校再編に関わる地区説明会を開会いたします。進行は、次第に沿って進めます。

2 委員長挨拶

進行 次第の2、委員長挨拶。

富山地区学校再編検討委員会 戸倉委員長、お願いいたします。

委員長 こんにちは。

本日はお寒い中、また、夜分お疲れのところ、説明会に御出席をいただきまして、誠に有難うございます。

また、検討委員の皆様、オブザーバーの皆様、お疲れ様でございます。

ただいま紹介をいただきました、戸倉です。どうぞよろしくお願いをいたします。

私ども、富山地区学校再編検討委員会は、富山中学校の再編に関し、富山地区の保護者の皆様や地元住民の皆様と情報を共有しながら、意見交換して、委員会内で協議・検討を重ね、富山地区の学校再編に関する方針をまとめ、その結果を市へ提言するという役割を仰せつかっております。

本日は、子どもたちを取り巻く様々な不安要素を解消して、良質な学校環境を保持するとともに、更に向上させるために、これから、どういう選択をすれば子どもたちの将来にとって最善なのかを、皆様と一緒に考えるために、説明会を開催いたしました。

後ほど、事務局のほうから市全体の中学校の生徒数の推移見込み、また、その中で富山中学校が置かれている現状、また、もし統合したら、富浦中学校と統合した場合についての説明がございます。

説明があった後、皆様から貴重な御意見を頂戴する段取りとなっておりますので、富山地区の子どもたちのために、忌憚のない御意見をお願い申し上げ、簡単ですが、挨拶とさせていただきます。よろしくどうぞ、お世話になります、お願いいたします。

3 教育長挨拶

進行 有難うございました。

続いて、次第の3、教育長挨拶。三幣教育長から挨拶を申し上げます。

教育長 改めまして、こんばんは。今日の説明会に御出席いただきまして大変有難うございます。

今、戸倉委員長のほうから説明がありましたとおり、私ども、この後御説明申し上げますけど、富浦中学校と富山中学校の生徒数が私どもの思った以上に減ってきております。したがって、両地区に再編検討委員会を立ち上げまして、12月にそれぞれの地区で保護者を対象にした説明会を行って参りました。年が明けて昨日、富浦地区の方々に説明会を行いまして、御質問・御意見頂戴して参りました。

本日は富山地区で皆様方から御質問・御意見いただきまして、それを踏まえまして、富山地区の再編検討委員会の皆さん方に御協議いただいて、両地区の再編についての方向性を探っていただく、こんなような考えでおります。

また、両地区で再編の方向性が合意できましたら、その後については、両地区の再編検討委員会の合同の会議を持ちまして、更に協議を進めていただく、そんなような予定を考えております。

重ねてになりますが、この後の再編検討委員会の議論のもとになってくるものですので、忌憚のないところで、御質問・御意見いただければ、大変有り難いと思っております。よろしくお願いいたします。

4 委員等紹介

進行 続きまして、次第の４、委員等紹介です。

お配りしてある「令和５年度 富山地区学校再編検討委員会委員名簿」と、「席次表」を御用意ください。

本来であれば委員お一人ずつ、お名前を御紹介するところではありますが、速やかに説明会に移り、皆様から御意見等を頂戴する時間を長くしたいと考えますので、本日は大変申し訳ございませんが、委員名簿と席次表を御確認いただき、御紹介に替えさせていただきます。

御理解のほど、よろしくお願いいたします。

５ 説明

進行 続きまして、次第の５、説明に移ります。

ここからは、戸倉委員長に進行をお願いいたします。

委員長 お世話になります。腰掛けさせてもらって、失礼します。

それでは、次第の５、説明に入ります。

（１）富山地区の中学校の現状について

（２）富山地区の中学校再編について

（３）保護者説明会の概要について

と、ありますが、関連していると思われますので、事務局から一括して説明をお願いしたいと思います。

その後、次第の６、質疑・意見交換で、説明に対して質疑、意見、その他、聞きたいことなど、一括して、お聞きしたいと思いますので、お願いをいたします。

それでは、事務局から説明をお願いいたします。

事務局 それでは次第の５、説明の（１）「富山地区の中学校の現状について」を説明いたします。

資料１の表面「南房総市立小学校・中学校 児童生徒数推移見込み（市内全地区）」を御覧ください。

この表は、令和５年５月１日現在で、学校基本調査を基にして、市内全地区の児童・生徒数の推移見込みを作成したのになります。表の富山地区の欄を

御覧ください。左端の令和5年度、中学計を見ますと生徒数は100人が、右端の令和11年度には90人で、10人減少する見込みとなっております。

同様に富浦地区は、令和5年度104人が令和11年度には68人で、36人減少、三芳地区は、令和5年度88人が令和11年度には96人で8人増加。令和6年度から統合する白浜・千倉地区は令和5年度235人が令和11年度には189人で46人減少。平成26年度に統合した丸山・和田地区は令和5年度157人が令和11年度には145人で、12人減少となっております。

この表は、あくまで見込み値ですので、今後、転入・転出があった場合は変わることもあります。市全体で出生数は減少傾向にあり、今後もこの状況は続くことが予想されます。参考になりますが、令和5年12月末時点での出生数が、富山地区が6名、富浦地区が8名となっております。

続きまして裏面の「中学校別 部活動の実施状況」を御覧ください。令和5年度、市内中学校別部活動の状況となります。

各校とも、少人数で切磋琢磨しながら活動していることがわかります。このような状況から団体競技では、単独チームでの参加が困難な部活動もあり、個人戦のみの参加や合同チームで大会に出場するなどしており、先ほど説明した推移見込みのとおり、今後もこの状況は続くことが予想され、部活によっては部員数がそろわず、休部せざるを得ない部活も出てくる可能性があります。

続きまして、資料2の表面「南房総市立中学校 生徒数・学級数・教員数推移見込み（富浦地区・富山地区）」を御覧ください。

この表は、先ほど御説明させていただいた資料に学級数・教員数を追加し、現状の理解を深めていただくために作成したのになります。令和17年度の1年生が、令和4年度に出生した子どもになります。先ほど参考としてお伝えした12月末までの出生数と、これから3月末までに生まれる子どもが令和18年度の1年生となります。

富山中学校の2段目、通常学級数（弾力）の欄を御覧ください。国の基準によりますと、40人学級を標準としておりますが、現在、千葉県の実力的運用により、1年生を35人学級、2年生、3年生を38人学級として運用をしております。現在、各学年1クラス編成であり、2クラス編成が可能な時期もありますが、おおよそ1クラス編成が続くことが見込まれております。

次に、富浦中学校の２段目、通常学級数（弾力）の欄を御覧ください。同様に２クラス編成が可能な時期もありますが、おおよそ１クラス編成が続くことが見込まれております。

次に、統合した場合の２段目、通常学級数（弾力）の欄を御覧ください。令和１５年度から各学年１クラス編成となる見込みですが、それまでは２クラス編成、３クラス編成が可能となります。

次に、教員の配置数ですが、富山中学校の１番下の段、正規の教員数の欄を御覧ください。令和５年度は１０名となっており、そのほかに臨時的任用講師が１名、会計年度任用職員として、体育・技術・美術の教科担任講師が３名おります。

次に、富浦中学校ですが、正規の教員数は１１名となっており、そのほかに会計年度任用職員として、美術の教科担任講師が１名おります。

次に、統合した場合ですが、学級数が増えることにより、教員の配置数も増加した配置となります。教員数が少なくなると、経験、教科などの面でバランスのとれた配置が行いにくくなり、増加した場合、教員同士で相談・研究・協力・切磋琢磨することなどができるようになります。

事務局 続きまして、説明の（２）「富山地区の中学校再編について」を説明します。資料３の「富山地区の中学校再編（案）」を御覧ください。

１番の市の再編（案）ですが、市では、富山中学校と富浦中学校の統合を再編（案）として考えております。富山中学校と富浦中学校の統合について、令和５年１１月１４日に富山地区学校再編検討委員会を立上げ、これから、統合するか、しないかについて、協議・検討いただきます。

次に、２番の富浦中学校との統合の理由ですが、アからカまでの６項目を記載しています。

ア 生徒が集団の中で、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて一人一人の資質や能力を伸ばしていくためには、統合により、生徒数を確保することが望ましいと考えられるため。

イ 富山中学校は、現在、各学年１クラスだが、統合することにより、２クラス又は３クラスの学級編成ができ、クラス同士が切磋琢磨する教育活動や、クラス替えが可能となるため。

ウ 学級数が少ないと配置される教員も少なくなり、教育活動に制約が生じつつあるが、統合することによって教員の配置数を確保でき、より良い教育環境を提供できるようになるため。

エ 生徒数の減少により部活動の実施が厳しくなっているが、統合することによって充実した部活動が実施できるため。

オ 富山地区及び富浦地区の遠方から、30分程度でスクールバス通学が可能であるため。これはどちらかの校舎を使用した場合であり、あくまで参考となります。

カ 三芳地区を含めた内房地区全体として検討をすると、かなりの広範囲となること及び三芳地区の生徒数は当面の間は現状を維持することから、三芳地区は除いて検討を行うため。

以上の理由から、市では、富山中学校と富浦中学校の統合を考えております。

最後に、3番の学校の再編時期、学校の位置、学校の名称についてですが、条例、規則等の改正を行う重要事項となります。この3項目については、富山地区、富浦地区、それぞれの学校再編検討委員会で富山中学校と富浦中学校を統合する方向でまとまりましたら、富山地区・富浦地区学校再編検討委員会で合同会議を開催し、その中で協議・検討していただくことと考えております。

事務局 続きまして、説明の(3)「保護者説明会の概要について」を説明いたします。資料4の「保護者説明会の概要」を御覧ください。

昨年12月21日に、富山小学校及び富山中学校の保護者を対象に富山地区学校再編に関わる保護者説明会を開催いたしました。

「富山地区の中学校の現状について」及び「富山地区の中学校再編について」を説明したところ、保護者の皆様から様々な御意見・御質問をいただきましたので抜粋して報告させていただきます。

まず、2ページ目のQ2、「資料2を見ると、令和11年度には1年生が40人になるとなっている。2年、3年後にはまた統合の話をすすめなければならないように思えるが、後手後手なように感じられ、もう少し先を見た統合は考えられないのか。」という質問に対して、「富山中学校と富浦中学校の統合を考えたのは、生徒が時間等の負担が少なく通学できると想定したためです。

現実にそのような人数になった際、人数を優先するのか、通学の負担を優先するのかを勘案しながら考える時期が来ると思っています。」と回答しています。

続いて3ページ目のQ4、小学生について、「統合になると、中学に上がる際、今までと違う子ども達と接することになります。そういった子ども達の気持ちの面での負担というのは汲んでいただくことは可能か。」という質問に対して、「白浜小学校と千倉小学校では令和5年度に入ってから、両校が交代で訪れたり、一緒に活動したり、関係を深めています。和田中学校と丸山中学校が統合した際、4つの小学校がありましたが、これについても同様に交流し、新しい中学校生活を迎えています。富山中学校と富浦中学校が統合した場合も、小学校の段階から交流を重ねていく考えでいます。」と回答しています。

次のQ5、「統合に賛成の考えではあるが、場所が決まっていないと理解しました。この地域で子ども達に学校に行ってほしいという思いがあります。既存の建物のどちらかにするのか、新たに建てるのか話が出ているのか。」という質問に対して、「両地区で統合するという方向性が出た後、合同会議を開き、通学の時間、その他のいろいろな条件を検討しながら提案していきます。」と回答しています。

続きまして4ページのQ6、「どういうスケジュール感で統合を目指しているのか、今の時点で何かありますか。」という意見に対して、

「決して急ぐつもりは無く、丁寧に議論していただきたいと思っていますが、これまでの経験から協議に2年間はかかり、その後、準備にもう1年くらいかかると思っています。そのため、早くても3年くらいかかると思っています。」と回答をしています。

以上が保護者からいただいた御意見・御質問の抜粋となります。統合後の質問が多く、概ね統合することを肯定的に捉えていただけていると思っております。

以上で説明を終わります。

6 質疑・意見交換

委員長 有難うございました。説明が終わりました。それではこれより、次第の6、質疑・意見交換に移りたいと思います。

ただいまの説明に対しての御質問、御意見や、その他、聞きたいことがある方は、挙手をお願いいたします。事務局がマイクをお持ちしますので、自席にてお待ちください。マイクが届きましたら、お名前を述べてから御発言をお願いします。

また、先ほど事務局からもお願いがあったとおり、御発言の際は、マスクを外していただけたら有り難いと思っております。

どんなことでも結構です、御質問、御意見等がありますか。ある方、どうぞ。

参加者 富浦中学校と富山中学校の統合に反対の立場で発言します。

全国で、そして南房総市において、この間、当然のことのよう小中学校の統廃合が行われました。私は以前から、このことについて疑問に思っております。小中学校の統廃合が何のために、誰のために行われてきたのか。国、文科省、総務省の方針に基づくものであり、南房総市の行政の都合によるものであって、決して子どものためではないのではないか、というふうに思っております。子どもには切磋琢磨が必要、小規模校では社会性が育たない、協力的意欲が低いなどというのは根拠がないではありませんか。部活動のために一定の規模の学校が必要だと言われますが、部活動のために学校があるわけではないではありませんか。

私は、次の3つのことを要望します。

第一、国連の子どもの権利条約が2023年4月から施行されており、子ども基本法によって、子どもの意見表明権が認められています。子どもの意見表明権というのは、子どもから、自分自身に関係することについて、自由に意見を表すことができるという権利です。そこで今回の統合問題について、当事者である富浦中学校、そして富山中学校の生徒全員を対象にアンケートを行うことを要望します。もし、生徒の過半数が統合に賛成しないのであれば、統合すべきではないというふうに思います。

第二、このアンケートを行った後、再度、住民説明会を開催することを要望します。

第三、学校の統廃合は地元住民にとって重大な問題です。時間をかけて慎重に検討し、子どもと住民の合意を得て進めることを要望します。

以上ですが、何かコメントあればお願いします。

委員長 お答えをお願いします。

教育長 今いただいた御意見は、再編検討委員会で議論の参考にすることになるかと思えます。ただ、いくつか申し上げます。

 ここ、富山地区については、平群小学校と岩井小学校の統合をかつて行いました。その際にですね、今お話のあった、文科省の方針とか、総務省の方針とか、そういったものに基づいて進めていたわけではないということです。子どもたちの将来、あるいは学校生活を考えて、この地区の皆さん方が真摯に議論して、両小学校の統合が決定されたということで、これは是非、御理解いただきたいと思います。一般論としては、質問者さんが仰っていることは当たっているかも知れませんが、当地区のこれまでの再編については、全く当たっていない、そんなふうに私は考えています。

 あと、子どもの意見を、ということもありましたけど、これも再編検討委員会で議論していただくことになりますが、私どもとしては、これまでは、大人の責任で子どもたちの教育環境を考えよう、ということでやってきておりますので、これは、教育委員会としての問題ではなくて、今いただいた意見は、再編検討委員会で当然議論されるものと思っております。

 その他についても同様に、質問者さんの仰った内容については、再編検討委員会で検討・議論することになると思います。

委員長 よろしいでしょうか。回答の方は。はい、どうぞ。

参加者 すいません、ひとつだけです。子ども基本法ですね、子ども基本法。これ、去年の4月1日から施行されたものです。だから、状況が変わってるのではないですか。これ、子ども基本法との関係性はどのようにお考えですか。以上です。

委員長 よろしいですか、お願いします。

教育長 それについても、検討して参ります。

委員長 よろしいでしょうか。

他に、はい、どうぞ。

参加者 こんばんは。

ちょっと気が付いたんですけれども、私たちのほうに机が無いんで、すごく見にくいんですよ、こういう資料。なんで皆さんのほうにはあって、私たちのほうには無いんでしょうか。これ置くにもどうしようもなくて、こうやってるんですけど。座ったままで質問させていただきます。さっきの気が付いたことについては、机も欲しかったなと思ってます。出すのが大変だったのかな。それは、後で教えてください。

それから、この資料なんですけども、昨日の富浦の説明会のと同じなんですよ。それも聞かせてください。

それから、私たちはここに住んで、地域の活性化ということも考えて、学校がなくなるということは、その地域が本当に、人口が少なくなる、住む人がいなくなる、こういうのは何処見てもそういうことを感じます。ですから、学校がなくなるということについて、もっともっと考えてもらいたいと思います。

次なんですけれど、子どもの通学にかかる負担っていうのを考えてないのではないかと思います。スクールバスとかそういうことを考えると思いますが、スクールバスにかかる時間っていうのは、非常に無駄っていうか、子どもにとっては負担の部分です。決められた時間にそこに行って乗らなくてはいけません。そして遠い子どもも近い子どもも、とにかくそういうもので制約されるわけですよ。実際に私はずっと昔に、昭和33年か34年頃に、丸山の大井地区のほうと、それから丸地区の統合問題っていうのを小学生の時にしていますけれども、それによって、スクールバスが走るからっていうことにはなったんですけれども、実際にとても負担なんですね。それは経験した人じゃないと分からないと思いますが。スクールバスがどんなものなのか、そんなに何便も走るわけではないから、それはすごく負担なんですけど。私は実際子どもの時に、そういうところで苦労しています。これ、実感として言います。

それからあと、そういうことも含めて、先ほどもありましたけれども、子どもの意見を一人一人聞いてもらいたいと思うんです。大人が責任持つ、まあ保護者が責任持つっていうのはありますけど、子どもの権利というものもありますので、やはりそういう子どもの意見というのを、きちんとね、聞き取る。先生方も聞き取る。そういうふうにしてもらいたいと思います。

それからあと、全体的に、統合すると教師が多くなるって言うんですけども、それは違うのではないかと思います。1つの学校でいろんな教科があつて、それに対しての先生がいる。そして、校長先生や教頭先生もいらっしゃるということで、2つあれば、その先生方の数とか保健の先生とか色々合わせれば、多いんじゃないかと思うんですね。1つずつの学校で、その2つを合わせた数というのね。どうなんでしょうか。なんか統合するとね、先生がうまい具合にいくって言うようなこと言いますけれども、ちょっと違うかなと思います。

それから、切磋琢磨、切磋琢磨と言いますけれども、そういうことだけではなくて、丁寧な指導ということでは、やはり子どもたちが大人数でやるっていうことでなく、しっかりと先生が一人一人を見られるっていうことでは、今、学級数が、ひとつの学級での人数というのがね、何十人学級って止められたりしてますけど、そういうところではどんどん子どもの数が減ってますよね。そういうところから見て、やはりそういうことを考えて、私は統合しなくても良いんじゃないかと思っています。

よろしくお願いします。

教育長 お考えは承りました。先ほどから申し上げておりますけど、平群小学校と岩井小学校の統合ということで、この地区の皆さん方は学校がなくなるとか、あるいは学校がなくなっても統合したほう良いのかとか、そういうものはかなりの期間、議論して参りました。スクールバス云々についても、それらを踏まえて、この地区の方々には子どもを通していろんな知見を持っていますので、そういうものを踏まえて、今回私どもの提案しました富浦中学校と富山中学校の再編についても御議論いただいて、方向性を出していく、そんなふうに考えております。

いずれにしても、いろいろ御意見いただきましたことを、それらを踏まえて、再編検討委員会で議論していくことになると思います。

委員長 よろしいでしょうか。

<質問者より、机の件と資料の件について回答がないと指摘あり>

教育長 1点目ですね。机に関しては大変配慮に欠けて申し訳ありませんでした。

資料につきましては、Q&Aですね、質問と答えが、富浦地区と説明会が違いますので、資料4のQ&Aについては違いますけど、その他については同じものでございます。

委員長 よろしいでしょうか。

参加者 もっといっぱい質問が出てたんですか。これ結構、数少ないんですけど。こんな感じだったんですかね。なんか、もっと色々質問が出てるようにも思うんだけど。ざっとまとめたって感じですか。

教育長 12月21日の富山地区の保護者対象の説明会では、ここに記載したものがほとんどであると思います。特にここに記載しなかったものはありません。

参加者 分かりました。みんな男の方が質問なさったんですね。なんか絵がみんな男の人なので。女の方は全然質問しなかったんですか。

教育長 そういう話が出ているとは思いませんでしたので、たまたまここは、Qのところに同じカットを使っているからそういうのがあったかと思いますが、女性の方の質問もあったというふうに記憶しています。

参加者 今ね、ジェンダーとか言われてる中で、細かいことだけれども、やはり男の人の、上位みたいなことを感じるので、やはりこれからはね、男女分権ですので、お願いします。

教育長 大変申し訳ありません。女性からの質問は無かったそうです。

参加者 そうなんですか。分かりました。

委員長 よろしいでしょうか。

他に御質問の方いらっしゃいますでしょうか。

<しばらくの間>

委員長 特に無いようですので、質疑・意見交換を終えたいと思いますがいかがですか。

参加者 次の説明会っていつぐらいになりますか。こういう意見が出て検討して、また説明するって言ってますけど。まあ、2、3年かかるとかっていうのもあるんですけど。いつぐらいになりますか。大体のところ。

教育長 12月の保護者対象の説明会があつて、今日の説明会を踏まえて、2月のうちに再編検討委員会を開きたいと、事務局、私どもとしては考えております。いずれにしても、再編検討委員会の皆さん方が最終的に判断されますので。ただ、私どもの予定としましては、2月中旬に検討委員会をお願いできたらと思っています。その後の説明会については、方向性とか、結論とか、そういったものがいつ出るかによってまた違ってくると思います。あるいは再度説明会を開いて、保護者あるいは地域の方々の御意見を求めるという、検討委員会の結論が出れば、そのようになると思います。

委員長 はい、どうぞ。

参加者 じゃあこれは、まだ再編するっていうわけじゃなくって、考え中なんですよ。ね。統合ありきですか。そこが聞きたい。

教育長 先ほどから申し上げておりますけど、私ども教育委員会としては、両地区の再編という方向で議論していただいております。再編ありきということですけど、そういうものが表現されるのは、私たち教育委員会としては、再編の方向で議論していただくということですので、結論については、それぞれの両地区の再編検討委員会で協議した中で、決まってくるというふうに考えております。

参加者 じゃあ、富浦になるのかとか、富山になるのかっていうのは分からないんですか。

教育長 これも先ほどの説明の中で申し上げましたけど、両地区で再編の方向が合意されましたら、その後、学校の位置等については、また改めて提案するという事で、先ほど説明したとおりでございます。

参加者 希望ですけど、是非このままで、って思います。以上です。

委員長 よろしいでしょうか。

他の方、どなたかございませんか。はい、どうぞ。

参加者 南房総市になった当時ね、人口が多分、3万8千くらいだったか、いたと思うんですけど、毎月配られてくる広報だとかを見ますと、先ほどもありましたけど、出生数が5人とか6人で、亡くなった方が70人、80人で、今現在、3万4千くらいですか、人口が。そうなってくると多分、市の方はどうするんだ、って。これ以降。だから、そういう中での教育だと思っています。学校の問題ね。今まで統合してきて、先生方が授業やってね、どうだったのかとか、そういうメリット・デメリットもあるかと思うんですね。だからその辺はね、こうだ、っていう良い方法をどうにか見つけて、と思うんですね。子どもたちをどういう状況で学ばせてあげれば、一番良いのかということだと思うんですよ。で、やっぱり、この町に愛着を持ってもらいたい。

本当にね、自分たちは歳とっちゃったからさ、もう10年後はいないかも分かんないから。でも、今の子どもたちは今後も生きていくわけだから。だから

大人の責任として、やっぱり子どもたちが安心して授業、勉強できて。だから、何でもかんでも、コストだとか、統合っていうことではないと思うんですよ。やっぱり本当にいい方法で。

今度の災害なんかあるじゃないですか。能登半島の。それで、じゃあ学校がすぐ避難所になった。それで、子どもたちが授業する場がない。こういう中でも自分たちは生きてるわけですよね。そうなった時に、本当に、学校ってどうあるべきかっていうことは、私もよく分かんないんですよ。こういうのが一番良いんだよっていうことは。分かんないけども。遠くだとか、足元によってのは…だからそれは、市町村合併していなければ、富山町で1校で、もしもの時も避難所になったわけでしょう。だから、統合して何が良かったのかと。そこはね、私は統合すると聞いたとき、メリットがあるから統合したと思ってます。そうなった時に、人口が減ってくる時期にね、町をどうしていくんだというのが根底にあって、そこに子どもたちの学校が、将来的にもこうなるんだろうと、大人がきちんとしなければならないと思うんですよ。

だからね、自分でも何言っただか分かんないけども、自分たちがやってきた経験がもう全て、現状が壊れて来てるのね。だから本当に、まさかこんなになるとは思わなかったんですよ。自分たちの生きてくる中で。だからね、自分たちも結婚して、子どもたちが安心してちゃんとね、そういう教育を受けられる。そして、将来に極力負担の無いようにする。ってというのが大人の責任だと思うんですよ。だからそうやって考えた時にね、今のただ、1+1が2というだけではない形があるんじゃないかと思うんですよ。だから、私もよく分かんないです。ただ、今までみたいに1+1が2だろうという答えだけではないというところは、これから是非考えていかないといけないと思ってます、私は。

だから、自分の中でも分からないけど、私はそういう想いです。以上です。

委員長 はい、お願いします。

教育長 私も、私の子どもの時代は学年で250人いました。それが50年、60年経って、今は学年が10分の1です。25人いるかいらないか。当時、私も同級生というと250人いましたけど、今の子どもたちは同級生が20人とか、

あるいは20人が欠けるような状況になってます。すると、私の想いとしても、これだけ減ってきたことについてはなかなか理解しきれないところがあるわけですけど。

そういう中で、子どもたちも一番良い環境ということで、この地区で言いますと、平群小学校と岩井小学校の統合という道を選んでいただきました。その際にですね、平群小の子どもは学年10人いないようなクラスがいくつかあったわけですね。統合することによって、富山小学校ということになって、いろんな感想が聞こえてきましたけど、子どもたちが初めて、駆けっことか本気でやるようになったんだと。今まで5人、6人で走っていると誰が一番になるか分かってたりしたけど、それが大勢になったら、本気になってやるようになった。そういうことも聞こえてきました。あるいは修学旅行も大勢で行けるようになって、非常に子どもたちも喜んでいたりとか、孫が喜んでいたりとか、そういう話も聞こえてきました。恐らくこの地区の方々は、平群小学校と岩井小学校が統合して富山小学校になって、子どもたちが活発に活動していることについては、非常に納得されていたんじゃないかなというふうに思っています。

ただ、市の人口が減っていく中、これを何とか止めなくちゃいけないというのも、私どもの責任というか、私どものやらなくちゃいけないところなんですけど、現実に子どもたちの数が少なくなってきましたよね。先ほど、教員の数の話が出ましたが、今恐らく、袴田校長は頭を悩ませていると思います。中学校は教科が10教科あります。配置される教員が10人になります。各教科一人ずつ配置して、それで終わってしまうわけです。ただ、国語とか数学とか、時間数が多い教科を一人の教員がやるのは難しいところがありますので、例えば国語と数学を2人にすると、10人しかいませんので、今恐らく、美術とか、技術、家庭科とか、そういったものはその時間だけ教えに来る講師にお願いしている、そういう窮屈な状況で今、富山中学校は運営されています。こういった教員の配置を考えても、やはり子どもの数が一定程度あって、学級数が多い方が配置される教員も多くなってきたり、教科指導等にも余裕が出てくるという現実がありますので、これらを踏まえて、また今日いただいた御意見、あるいは想いですね、そういうものを踏まえて、再編検討委員の皆さんに議論を進めていっていただきたいと思っております。

委員長 よろしいでしょうか。

他にございますか。はい、どうぞ。

委員 すいません、今、いろんな御質問含めて、教育長の方からいろんな回答があったと思うんですけど。私、富山学園のPTAの役員をしております。

まだ、統合する・しないの話を、私たちも教育委員会の方々と関わって、まだ実際何の話も進んでいません。

私、岩井小学校の卒業で、富山中学校なんです。なので、岩井小学校の時には岩井の子たちとしか関わっていなかったから、富山中学校になったことによって平群の子たちと関わるようになりました。正直、高校の仲間とは、もうほとんど疎遠に近いんですけど、小中の友達って今でもずっと関わっていられるんですね。なので親の立場としては、子どもたちがより良い環境で、要は学校で学んで、勉強を学んでいければ、僕はどちらでも構いません、正直。

ただ、今、教育長からもお話があったように、10教科に対して10人。10人の先生しかいないというところで、僕も正直勉強できる方ではありませんでしたが、先生とかの相性って子どもながらにあるんです。なので例えば、数学の先生が一人しかなくて、相性が悪ければ、もう分からないままなんです。じゃあ塾に行けばいい。塾に行けば金がかかる。普通の学校の教育の中でいろんなことを学んでいければ、統合ありき、なし、別に僕はどちらでも構わないんですけど、ただ、子どもの逃げ道としては、先生との相性が悪かった時に、他の教育者がいれば、そこに頼ることもできるのかなって、僕は個人的に小中の時に、感じたことが多々あったので、人が多いということに関しては、僕は全然良かったのかなって思います。

委員長 有難うございました。

他にございますでしょうか。

<しばらくの間>

委員長 よろしいようなので、これで終了します。

後日、何か、お気づきになった点、もっと知りたい点などがあれば、直接、事務局のほうへお問い合わせいただくようお願いしたいと思います。

本日、皆さんから頂戴いたしました御意見等は、今後の富山地区学校再編検討委員会の協議・検討の際に参考とさせていただきます。

それでは、次第の6、質疑・意見交換を終わります。進行のほうを事務局お願いします。

進行 戸倉委員長、進行ありがとうございました。

本日、聞き漏らした点や後日、お気づきになった点などがございましたら、事務局の学校再編整備課、電話46の2962までお問い合わせください。

また、今後の富山地区学校再編検討委員会の協議・検討内容は、市ホームページで逐次公開いたしますので、御確認をお願いいたします。

7 閉会

進行 それでは以上をもちまして、富山地区学校再編に関わる地元説明会を閉会いたします。

御協力ありがとうございました。